

グローバル教育セミナー

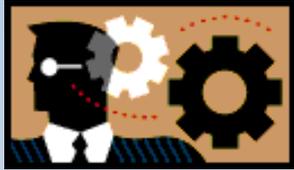
グローバル化に対応した学校運営と教育について

関 孝平

Max Kohei Seki

グローバル教育、その前に、、、

根本的な質問です



そろそろ本校も「グローバル教育」を始めなくては。
本校における「グローバル教育」の位置づけをどうしよう。

ちょっと待った!!

グローバル時代とは、どんな時代ですか？
グローバル人材とは、どんな人材ですか？
グローバル教育とは、どんな教育ですか？

そもそもの課題

これらの根本的な要素を放置したまま「グローバル教育」に入っていないませんか？

➡ 時代と社会の変化を読み、そのニーズをとらえた教育デザインが必要

Let's Discuss 1

グローバル人材とは、どんな人材ですか？



これまでに聞いた声

「海外で勤務している」

「英語がぺらぺら」

「しょっちゅう旅行に行く」

では・・・

グローバルな教員とは、どんな教員ですか？

グローバルな社員とは、どんな社員ですか？

でも「実際に求める上司像、部下像」とギャップがありますか？

「グローバル時代」を考える

グローバル時代

政治、経済、文化、生活、全てが地球規模で動き、流通する時代
日本にいてもどこにいても外国、異文化とつながるが当たり前

海外にいる人・行く人が「グローバル」になる時代ではない。
「グローバルな人」が日本か海外を選ぶ時代。

グローバル時代

これからの土俵はグローバル
海外企業とも対等に戦う
これまでの人材では通用しない



少子高齢化社会

国内マーケットは縮小していく
新たな労働力が必要になる
新たな消費活動を創造する



「市場拡大」、「人材流通」、「イノベーション」という共通の課題

いかに「グローバル人材」を確保するのか

「グローバル時代」を考える

グローバルマーケット

上場企業の営業利益 海外比率
26%(2000年) ⇒ **48%(2010年)**

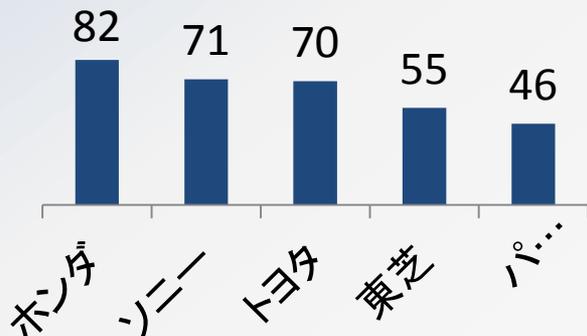
海外売上 目標比率

企業	現状	目標
川崎重工業	48%	65%
パナソニック	48%	55%
NEC	20%	50%

ダイキン工業の事業展開

地域	子会社	従業員
日本	41社	11,150人
北米など	30社	4,450人
欧州	56社	5,800人
中国	30社	11,400人
他のアジア	35社	8,700人

企業の海外依存度



資料: 日本経済新聞、ベネッセ
留学ジャーナル
国際協力銀行

「グローバル時代」を考える

就職に見るグローバル化の波

『海外拠点の設置・運営にあたっての課題』

グローバル化を推進する人材の確保・育成 74.1%

グローバル人財

- ① 留学経験者を採用したい企業： 23% 大手は3分の1
- ② 採用時のTOEICスコアを参考にする： 78%
- ③ 採用の8割は外国人枠： パナソニック
- ④ ボストンキャリアフォーラム（株・ディスコ主催）

「就職氷河期ではない！人材氷河期だ！」



外国人

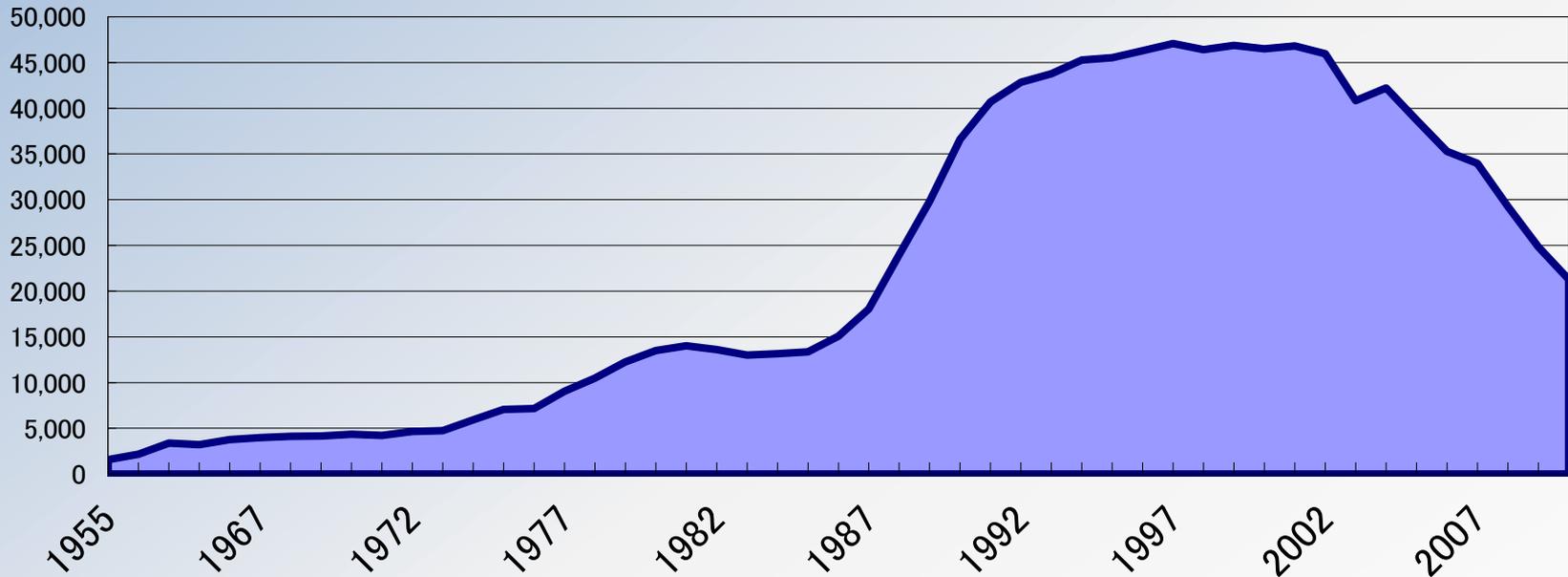
留学生

国内生

国内生も負けない
「グローバルな人材価値」を

内向き志向な日本人

外に出ない日本人学生



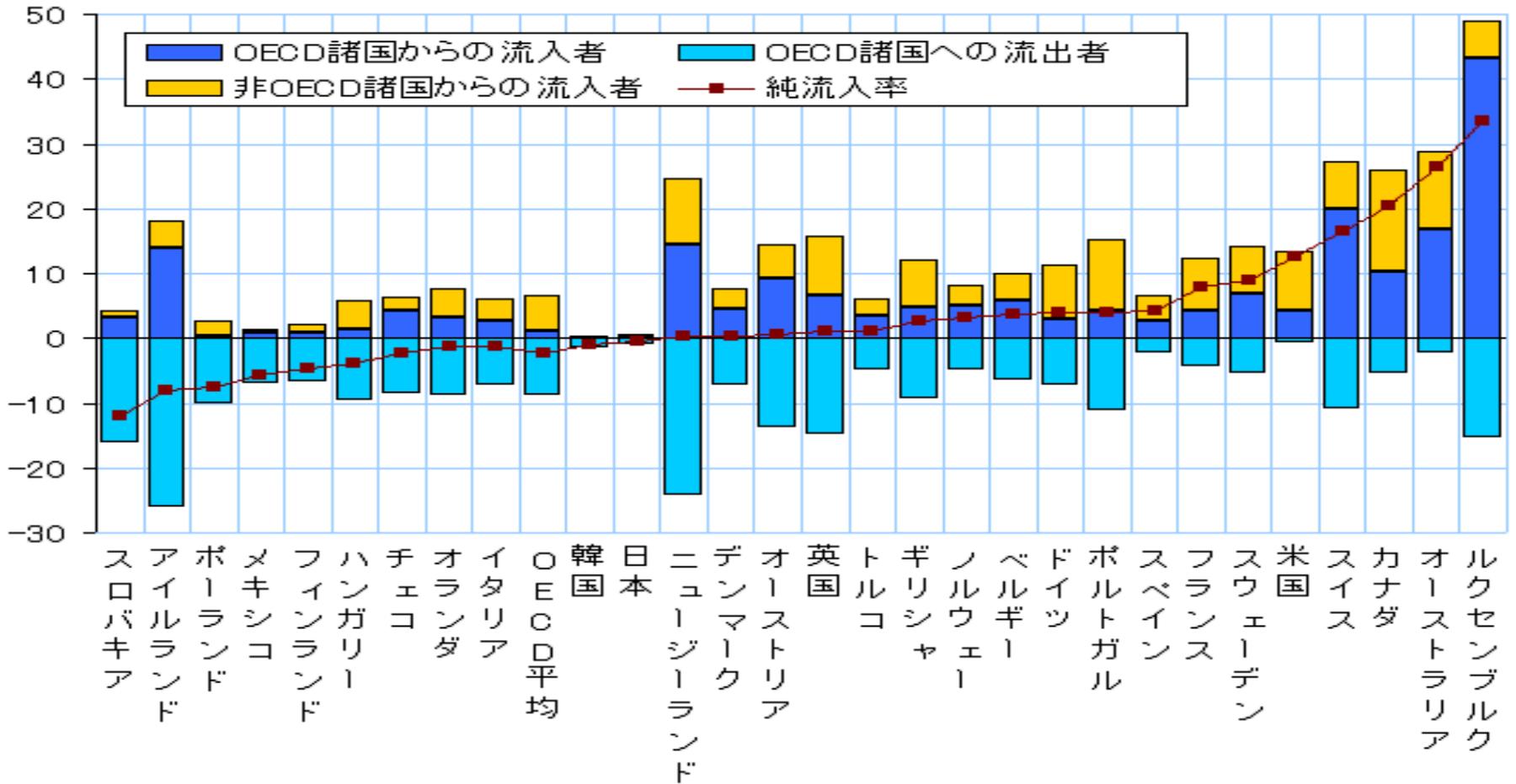
	アメリカ大学留学生	2010年	2011年
1	中国	127,628	157,558
2	インド	104,897	103,895
3	韓国	72,153	73,351
8	日本	24,842	21,290

(出典: Open Doors)

内向き志向な日本人

高学歴人材の国際流動

大卒以上外国人流入者・流出者の比率の国際比較(2000年頃)



(注) 大卒以上人口に占める外国出身者比率等である。純流入率の低い順に並べてある。

(資料) OECD Factbook 2007

外に出ていけ日本人！

外に可能性を求めろ！



『若者よ、海外に出よ』と言いたい。日本は居心地が良いし、海外の(研究機関の)方が優秀とは限らない。しかし日本を外から見る機会がこれからますます重要になる。日本はもっともっとノーベル賞をとっていいと思う。

ノーベル化学賞 Purdue University 根岸英一氏



世界で最も閉鎖的な先進国 世界に向かってドアをあけずに単一民族に固執し、中に閉じこもっている。

IGM(世界経営研究員理事長) チョン・ソン Chol 氏

グローバル志向の日本人学生になれ！

グローバル化は国家課題

日本再興戦略： Japan is Back



グローバル人材育成は、政府、企業、大学、中高の共通の課題

「日本の若者を世界で活躍できる 人材に育成する」

今や日本の若者は世界の若者との競争にさらされている。将来の日本を担う若者が、国際マーケットで勝ち抜き、学術研究や文化・国際貢献の面でも世界の舞台上で活躍できるようにするために、まず何よりも教育する側、すなわち学校を世界基準に変えていくことを急がなくてはならない。

(2013年6月14日 『日本再興戦略』より)



教育のグローバル化が急務！！

グローバル化の波が教育界へ

2013年

グローバル教育ゼロ年度

大学

SGU

英語改革

留学

特に大学の動きは目を見張るものがある

高校

SGH

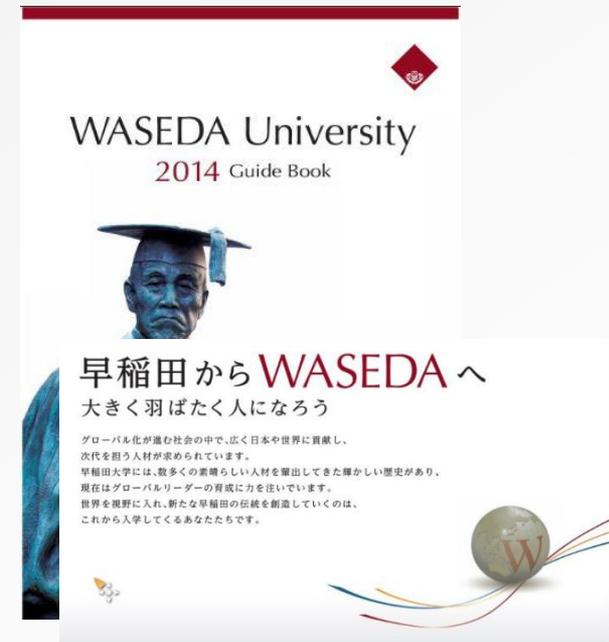
日本語IB

TOEFL入試
TEAP入試

英語教員
留学研修

留学支援

海外進学



「グローバル人材」を考える

グローバル人材

どこにいても(国内でも海外でも)自分のパフォーマンスが下がらない人
むしろワクワクしてグレードアップしてしまう人



具体的にはどんな力を持った人材か

コミュニケーション能力

語学力

発信力

交渉力

異文化対応力

多様な
価値観

多面的な
視野

柔軟性

デザイン思考

課題
解決力

クリエイ
ティビティ

ロジカル
シンキング

人間力

前向きな
姿勢

アイデン
ティティ

誠実さ

「グローバル人材」を考える

経済競争のためだけではない、勝ち抜くだけではない

豊かなグローバルマインド

しっかりとしたアイデンティティと価値観を持つ

「世界」を見る目と「自分」を見る目を構築する

自分と世界のつながりを構築する

積極的に「みんなの」課題に取り組む

競争ではなく「共存、共栄」を探求する



「グローバル教育」を考える

グローバル教育

グローバルな時代を主体的に生き抜く人材を育成すること

変動の激しいこれからのグローバル時代がどのようなものかを
学校がしっかり考え、求められる人材を再定義し、教育を変容させていくこと

「リベラルアーツ」「新しい思考とスキルの育成」という視点で教育デザインを考える

グローバル教育のエッセンス

英語教育の根本的改革

国際交流、異文化交流

グローバル社会に目を向けた意識、素養の教育

課題解決型教育 (Problem Based Learning)

クリティカルシンキング、デザイン思考の育成

発信型教育、プレゼンテーション能力の育成

ICT教育

これまでの国際教育

GED = 英語、国際交流

この公式はもう古い。これだけではニーズに追いつかない。

でも、これらが今でもかけがえのない要素。

では、中高で求められる
「グローバル教育」「グローバル人材育成」とは？



では、中高で求められるGEDとは何か

ここで質問です

最近「グローバル教育プログラム」としていろいろなプログラムができています。
みなさんは、どのようなプログラムを導入しますか？

リーダーシップ
プログラム

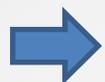
エンパワーメント
プログラム

課題解決型
プログラム

ロジカルシンキング
プログラム

ちょっと待った!!

- ・ 生徒は「グローバル時代」「グローバル人材」に興味を持っていますか。
- ・ これらは本当に「グローバル教育」なのでしょうか。
- ・ グローバル教育は単発のプログラムで完結するものなのでしょうか。



一番大切なのは「自分ごと」として「グローバル」に興味、意識を持たせること

では、中高で求められるGEDとは何か

ポイント1 生徒の「グローバル」に対する興味、意識を高める

「グローバル時代」を意識し、「グローバルな自分になりたい」と思わせる

ポイント2 中高でもできること、中高でなくてはいけないことを行う

中高生として磨くべきグローバルな姿勢、視点、スキルは何か

ポイント3 「グローバル」「国際」に真っ向から取り組む

「世界」にダイレクトにつながる教育を組み立てる

ポイント4 学校自体がグローバル教育の場ととらえる

全ての生徒に学校としてグローバル教育を日常的に行っていく

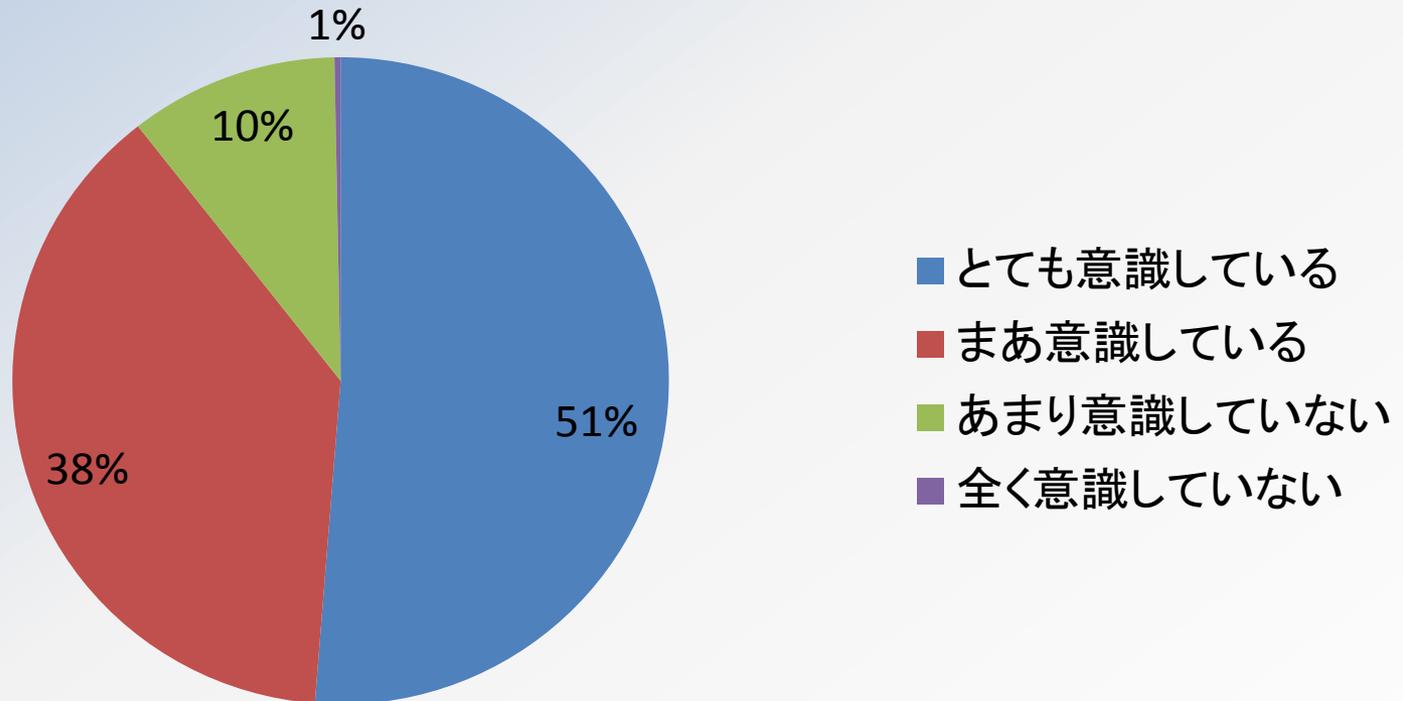
ポイント5 日本を知り、世界を知る & 世界を知り、日本を知る

日本人の品格を備えたグローバル人材の育成

中高のグローバル教育の取り組み

コアネット教育総合研究所 「グローバル教育の実態と学校選択の視点」より

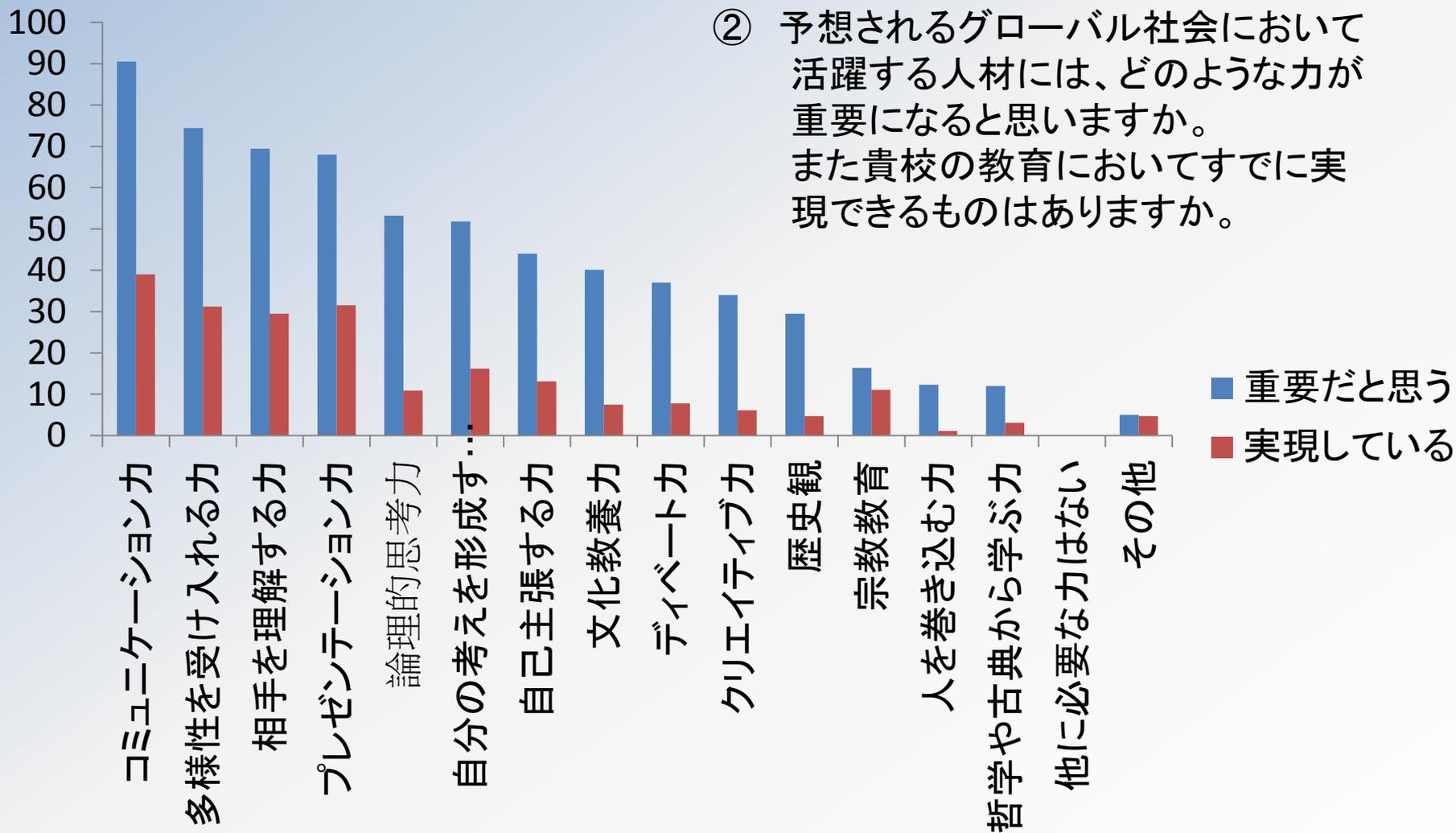
① 「これからのグローバル社会」を意識して教育を行っていますか



漠然としたニーズ(何となくやらなきゃ感)はあるけども・・・

中高のグローバル教育の取り組み

コアネット教育総合研究所 「グローバル教育の実態と学校選択の視点」より



中高のグローバル教育の取り組み

コアネット教育総合研究所 「グローバル教育の実態と学校選択の視点」より

- ③ 英語の授業とは明確に異なる、国際理解教育およびグローバル教育はどのぐらいの頻度で実施されていますか。

頻度	%
特別行っていない	35.9
特定の学年で年間数時間	17.2
特定の学年で毎週数時間	11.0
6年間を通じて年間で数時間	10.4
特定の学年で半年に数時間	4.6
6年間を通じて半年に数時間	3.7
6年間を通じて毎週数時間	1.8
その他	15.3

重要と思っけていてもなかなか組みこめない = 人材、教科カリキュラムの問題

グローバルな学校になるために
～どの学校も抱える課題～



グローバルな学校になるために

1 知る、気づく、意識する

グローバルと
社会の変化

生徒、保護者の
ニーズ

他校の取組
(先進校、IB, SGH)

本校意識調査	1年留学説明会	海外進学ガイダンス	海外4大学が来校
留学に興味ある 80% (90名/110名)	30名参加	65名参加	17名参加

ニーズに気付く & 掘り起こす

特に、私学である以上、これらのニーズにしっかりと対応するのが使命

3つのニーズ

ニーズを積極的に掘り起こす

社会、時代のニーズ

生徒、保護者のニーズ

学校のニーズ



ビジネス性
生産性

学校のニーズをキャッチする

- ・ 求められているグローバル教育を理解する
- ・ 学校の特性に合ったプログラムを構築する
- ・ 新たなニーズを掘り起こす



グローバルな学校になるために

2 管理職、教員の意識改革

生徒は柔軟に変わります。教員の変容が一番大変。



こんな状況ではありませんか？

「別にグローバルなんて必要ないよね」

「グローバルアレルギー」を持っている

「グローバルは英語科でしょう」

「海外よりも日本の大学に行けば」

「そもそもグローバル教育ってなに？」

40年のギャップを埋める教育を

これからの生徒が飛び込む世界はどんな世界か考える
生徒の芽を摘まずに、大切にする



グローバルな学校になるために

3 グローバル人材像、コンセプトの明確化

実践女子GSCが目指す女性像

国内外問わず、友人の輪を作ることができる女性

グローバルな意識と教養を持ち、多様性を認めることができる女性

グローバルな社会問題に関心を持ち、自ら探究できる女性

クリエイティブに考え、主体的に活動できる女性

コミュニケーション能力に優れ、積極的に自己表現できる女性

日本の文化を理解し誇りを持って発信できる女性

洗練された
語学力

グローバルな
教養と意識

日本人女性
としての品格



そしてこれらを自分の言葉で語れるようにならなくてははいけない

グローバルな学校になるために

4 取り組みの柱を決め、整理する



グローバルな
雰囲気作り

- ネイティブ教員の積極的雇用
- 帰国生入試



グローバルを
体験する

- 留学システムの充実、留学生との交流
- 国際交流プログラム、語学研修



グローバルに対する
関心を高め、視点を持つ

- 異文化理解
- 多様な価値観の容認



グローバルな
思考、スキルを磨く

- 課題解決型学習
- クリティカルシンキング



グローバルなコミュニケー
ション能力を培う

- 英語教育の根本的改革
- 発信型授業の導入、プレゼンテーション

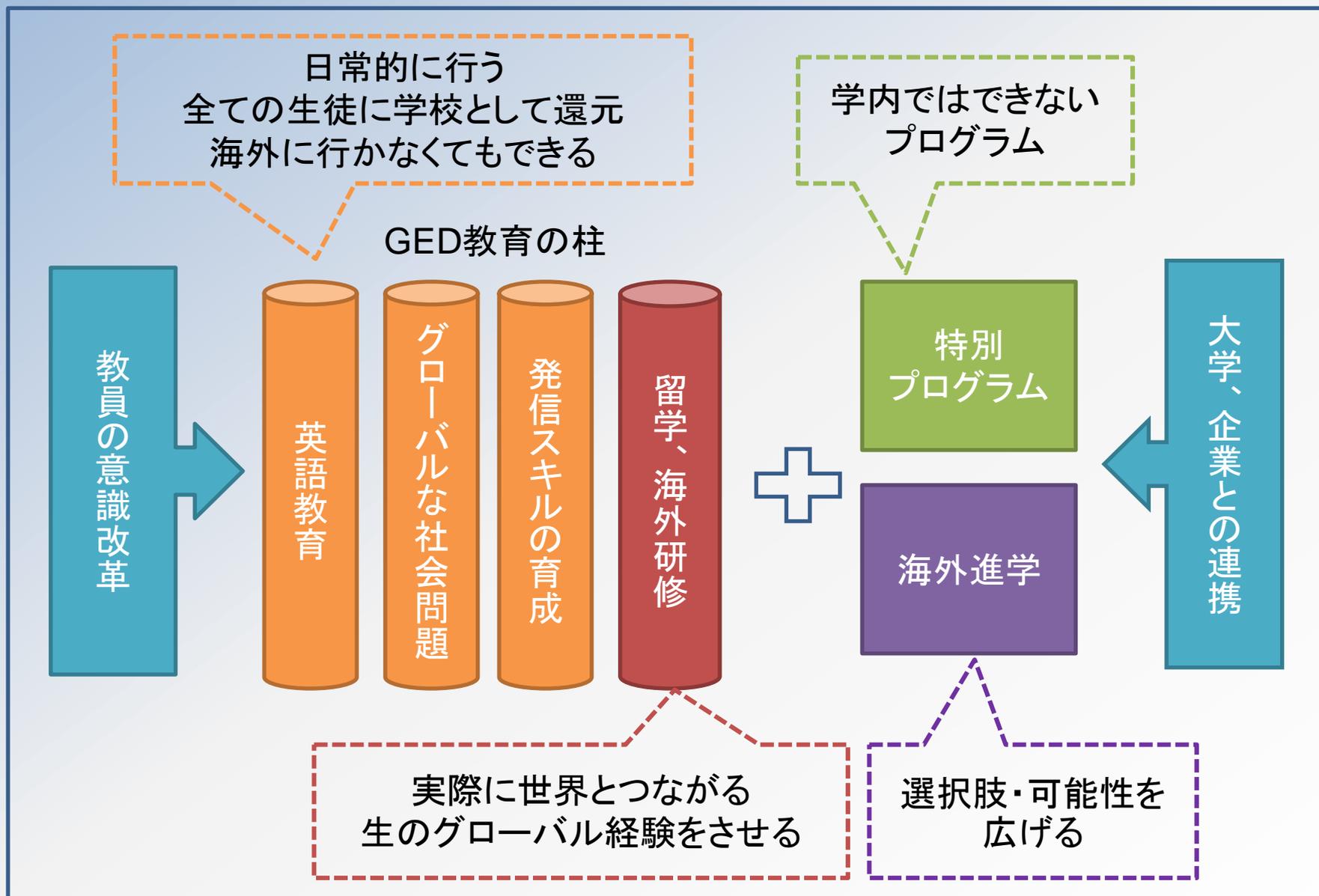


グローバルな
キャリアを探究する

- グローバルキャリア教育の充実
- 海外進学

グローバルな意識 + 英語教育、国際交流 + アルファ

1つのモデルイメージ



グローバルな学校になるために

5 専門部署の設置、人材の育成

グローバル教育は専門職
スペシャリストとして、ジェネラルに動く



教育
デザイン

先進校の例
IBやSGH
カリキュラム

英語
教育

英語指導法
TOEFL指導
受験指導

キャリア

企業の動き
人材育成
意識付け

留学
国際交流

留学業務
トラブル対応
危機管理

海外進学

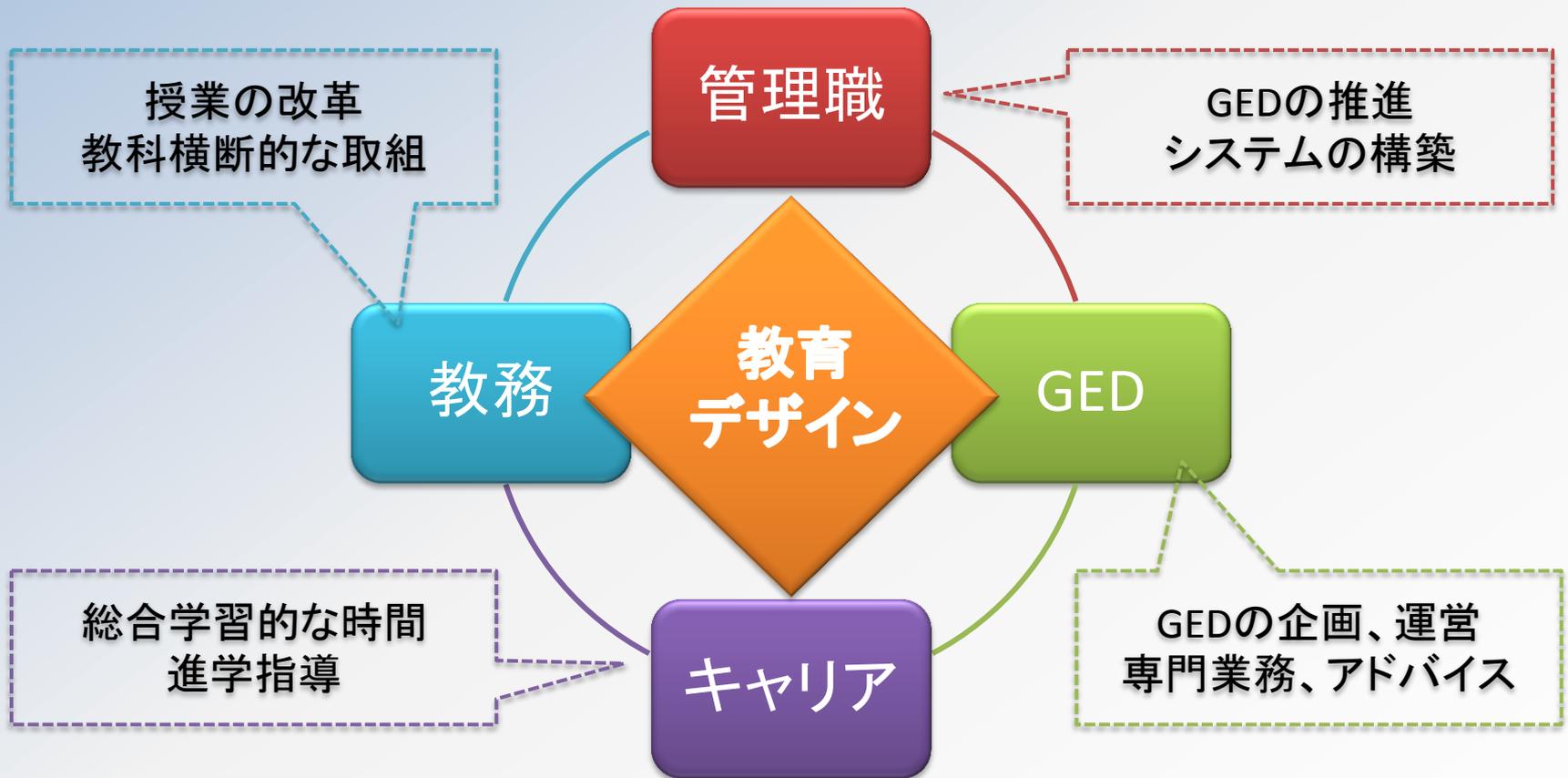
カウンセリング
出願指導
担任サポート

生徒募集

説明会
入試分析
転編入

グローバルな学校になるために

6 管理職、キャリア、教務との連携



オープンマインドな教育デザインを作る

グローバルな学校になるために

7 全校的取り組みにする

多くの
教員が関わる

- GEDスタッフに英語科以外を入れる
- GSCの担任はなるべく他教科
- 我慢強く参画を訴える

GSCの成果を
学校全体に普及

- GSC英語教育のSJCへの普及
- 授業以外の取組はGSC、SJC共通

英語科のリーダーシップ + 脱英語科依存

この時代に英語教員になった
以上、やるしかない

多くの教員に積極的な参画をさせる
英語科を支える組織体制と意識

Let's Discuss 2

グローバル教育部長にはどんな人材がふさわしいと思いますか。
(性格、考え方、経験、スキル、など)

- 1 授業力がある人、指導力がある
→ 教師として周りが認める存在である
- 2 知ったかぶりが得意である
→ 外部の情報を自分のものにすることができる
- 3 適度に生意気、ちょっとかぶれているぐらいがいい
→ クリエイティブに企画するリーダーシップ
- 4 人と変わっていることを自画自賛
→ 新しいものをデザインする楽しさを知っている
- 5 プライドが高い、負けず嫌い
→ ビジョンと責任を持って行動する
- 6 語学力、海外経験にたけている
→ 自ら生徒のモデルになる





具体的なプログラム作りを考える
～実践女子の取組をもとに～



留学システムの構築、見直し

留学を奨励、支援する姿勢と体制はありますか

語学研修の見直しも課題

重要

語学研修

交換留学

1年留学

留学生受け入れ

業務体制
留学業務、実務
事前指導

法整備
規程、内規の策定
大学の推薦

リスクマネジメント
法的なリスク管理
危機対応

「留学なんて…」は禁句

リスクマネジメントの重要性



知る

- 危機管理情報
- 保険事情

議論する

- 特別な事情におけるガイドラインと手順の策定
- トラブル対処のケーススタディ

伝える

- 教員対象の講習会
- オリエンテーションやハンドブックにおけるリスクマネージメントの充実



グローバルキャリア型プログラム

今の研修を改革する

積極的にグローバルキャリア型プログラムをデザインする

英語教育の根本的改革

国際交流、異文化交流



グローバル社会に目を向けた意識、素養の教育

課題解決型教育 (Problem Based Learning)

クリティカルシンキング、デザイン思考の育成

発信型教育、プレゼンテーション能力の育成

ICT教育



グローバル
キャリア型へ

典型的なプログラム要素

- ・海外大学、キャリア体験
- ・課題解決型学習
- ・思考と意識の変容
- ・自己発信

海外進学

海外進学は1つの選択肢

- ① 海外進学アドバイザー
 - ・カウンセリング、担任サポート
- ② 海外進学ガイダンス、体験談
- ③ TOEFL授業、講座
 - ・GSCは授業で受けられる
 - ・放課後講座、夏講座も用意
- ④ 外部業者との連携
- ⑤ 海外大学・推薦入学制度
 - ・アメリカ5大学、カナダ1大学
- ⑥ 海外大学による本校訪問

まずは生徒の芽を摘まないことが大切

英語教育改革

今、高校生が目指すべき英語力は何か

授業を聴く
ノートを取る

聞く

意見をやりとりする
プレゼンテーションをする

話す

ACADEMIC ENGLISH
大学の授業に通用する英語力

読む

教科書やニュースを読む
大事な箇所をメモする

書く

エッセイや感想文を書く
メールを送る

英語教育改革

まずは、英語教員の意識&スキルアップ

グローバル時代において、「英語」と名のつくプロフェッショナルであることの意識

これからの時代に英語教員に求められること

TOEFLで100点が取れる

当たり前で英語で授業ができる

TOEFLを教えることができる

ネイティブ教員と交渉、コミュニケーションができる

グローバル教育をリードすることができる



まずは教員が英語で授業をやる
生徒にどんどん英語を使わせる



「本校はこんなにできるかな」



今、どこまでやるべきか

	今の最低限の目標	最終的な目標
意識	<ul style="list-style-type: none">・「グローバル」という話題を出すことをはばからない・学校説明会で時代背景を語る	<ul style="list-style-type: none">・多くの教員がグローバル教育に関わり、学校として推進できる
GED部	<ul style="list-style-type: none">・専門職を配置する・独立した部署にする	<ul style="list-style-type: none">・校務の中心的会議に参加する・十分な人とお金の確保をする
留学システム	<ul style="list-style-type: none">・語学研修の設置をする・1年留学の単位認定をする	<ul style="list-style-type: none">・グローバル語学研修を設置する・提携校を増加させる
海外進学	<ul style="list-style-type: none">・進路調査に「海外」を入れる・まずは1名の進学実績を作る	<ul style="list-style-type: none">・学内で指導ができる・毎年海外進学希望者が出る
英語教育	<ul style="list-style-type: none">・「このままではヤバイ」という声が英語科から聞こえてくる	<ul style="list-style-type: none">・英語が飛び交うのが自然になる・TOEFLを教えることができる
グローバルキャリア	<ul style="list-style-type: none">・総合的な学習の時間に数時間取り組みが導入される	<ul style="list-style-type: none">・総合の軸がグローバルになる・大学や企業といった外部人材が参画するプログラムにする
リスク管理	<ul style="list-style-type: none">・リスクマネジメントの議論をする・保険やトラブル対処に基礎的な知識とノウハウを持っている	<ul style="list-style-type: none">・リスク管理マニュアルを作る・学内で危機管理の指導ができる

これからのターゲット分野

語学研修

- 中学語学研修
- グローバルキャリア型の語学研修
- 事前研修、事後研修の充実、リスク管理の強化

グローバル キャリア研修

- 国内でできるグローバル人材研修
- 課題解決＋発信型のプログラム＋留学生の参加
- 大学連携、産学連携

海外進学

- 海外進学ガイダンスの開催
- 海外進学アドバイザー(教員)の育成
- 指定校推薦

セミナー、講習

- 学校対象のGED研究会、GED担当者の養成
- 海外進学アドバイザーの育成
- ネットワークの構築

最後に

自らが変わる

強い信念を持ち、思いを語る

どんどんクリエイティブにやってみる

一緒に協力する仲間を作る

学校の枠を超えて一緒に協力して取り組む

地道に頑張る

ストレスを発散する、無理しすぎない

本日はありがとうございました